



# 腫瘍内科 NEWSLETTER

第6号

## 第6回がん治療病診連携セミナーを開催しました

日時：2016年6月23日(木)  
場所：TKPガーデンシティ仙台

がんの年齢調整死亡率は検診の普及や治療法の発達により改善傾向にあります。超高齢化に伴いがん患者数は依然として増加の一途をたどっています。各都道府県のがん診療連携拠点病院ががん診療の中心的な役割を担う一方で、地域におけるがん患者支援体制の強化もますます求められています。

今回私たち東北大学病院腫瘍内科は、地域の医療機関の先生方とのさらなる連携の推進による質の高い円滑ながん診療を目的として、「がん医療連携の取り組み」をテーマに第6回がん治療病診連携セミナーを開催いたしました。

### 講演 1 東北大学病院先進包括的がん医療推進室の果たした役割と今後の課題

東北大学医学系研究科 地域がん医療推進センター 教授 森 隆弘 先生

#### ● 先進包括的がん医療推進室の活動概要と成果

厚生労働省地域医療再生基金による宮城県地域医療再生計画の一環として、地域がん医療の情報発信や専門医療者と患者・家族のネットワーク形成を目的とし、平成23年から平成27年度までの4年強活動を行った。

ポータルサイト「がん情報みやぎ」を開設し、がん診療拠点病院や診療所等の医療に関する情報だけでなく在宅療養に必要な訪問看護ステーションや地域包括支援センター等の情報、がん相談支援センターや患者会・サロンに関する情報を公開した。また、県内の患者会に対して講演会や研修会を実施し、県全体の患者会のネットワークを形成した。このような広報活動を通して、厚生労働省の目的である「地域がん医療体制の整備」に貢献した。

#### ● 活動を通して見えてきた課題

働く世代へのがん対策の充実、国のがん対策推進基本計画の中で重点的に取り組むべき課題の一つに挙げられている。宮城県として「がんになっても自分らしく暮らせる社会の構築」を目標にしているが、がん患者の就労支援などまだ不十分な部分があり、今後も対策が必要である。

また、在宅緩和ケアの充実も重要な課題である。例えば岩手県の北上市では、市と医師会とが協働してネットワークを構築し、充実した在宅緩和医療が行われている。このような自治体と医師会との連携が、地域でがん患者を支えるためのキーポイントとなるかもしれない。

### 講演 2 がん医療の質の向上を目指した病診連携

東北大学病院 腫瘍内科 助教 高橋 信 先生

がんの病診連携には、診断時や術後のフォローアップ、終末期など様々なステージでの連携があるが、薬物療法の進歩により治療期間が長くなり、その間の連携も重要となってきている。

大学病院のメリットは勿論高度で専門的ながん医療が可能なことであるが、待ち時間が長いこと、自宅から遠いこと、主治医が不在の場合があること、慢性的なベッド不足などのデメリットもある。そのため適切な病診連携を行うことで患者の利便性の向上、安心、安全が確保出来る。腫瘍内科で治療中の患者の連携のポイントとして、下記の2点があげられる。

#### ● 副作用のマネジメント

がん薬物療法に伴う副作用はさまざまあるが、頻度の高いものに骨髄抑制がある。しばしば発熱性好中球減少症をきたすが、ガイドラインの通りに治療することで、外来でのマネジメントが可能な場合も多い。また、食欲不振や悪心・嘔吐もよく起こる副作用だが、適切な補液や



制吐剤投与で入院を回避することができる。分子標的薬の普及により皮膚障害のマネジメントの重要性が増しているが、これについてもステロイドの投与を基本として外来で保清、保湿、刺激からの保護といった点を細かく管理することで、増悪を防ぐことができる。

#### ● 併存疾患のマネジメント

高血圧や糖尿病など、がん薬物療法を行いながら治療を継続する必要がある併存疾患を持っている患者は多い。長年診察されている診療所・クリニックの医師が継続して診療することは、良好なマネジメントの面で有効なだけでなく、患者の安心感につながると思われる。より良い治療のために積極的な協力関係を展開していきたい。

### 講演 3 がん拠点病院との病診連携による取り組み

医療法人 社団 北社会 船岡今野病院 院長 佐藤 和宏 先生

#### ● 前立腺がんに対する仙南地域の病診連携

2015年のがん統計予測で、前立腺がんの罹患患者数が男性のがん種別罹患患者数の内訳で第1位となり、前立腺がんの検診はますます重要となっている。

仙南地域では平成15年からPSAを用いた前立腺がん検診を開始した。住民検診でPSA値が4ng/ml以上であれば、各自治体から二次検診勧奨の手紙が送付され、対象者は船岡今野病院を含む二次検診医療機関を受診する。そこで経直腸の超音波検査などが行われ、がんが疑われる場合宮城県立がんセンターやみやぎ県南中核病院で針生検等の確定診断のための検査が行われる。三次医療機関でがんと診断される割合は50~70%と高率であり、二次検診医療機関での患者のセレクションが効果を示していると考えられる。三次医療機関でがんでないと診断された場合のPSAのフォローやホルモン療法については二次医療機関で行っている。



#### ● 病院と診療所の信頼関係が大切

二次検診医療機関が患者をセレクションし、適切に三次医療機関におくるには両者の信頼関係が必要である。そのような信頼関係の構築にはface to faceの関係が欠かせず、仙南地域では定期的に泌尿器科医が集まるような会を開催している。また、このような連携にはしっかりした役割分担の意識が必要である。PSAフォローのみの患者を三次医療機関が継続して診療を行うと、患者の利便性は低くなってしまふ。経過観察やホルモン療法の患者は二次医療機関が行う、といったような役割分担を明確にすることで有効な連携が可能となる。

#### ご案内

今回のセミナーにて、副作用のマネジメントや併存疾患の管理など、がん診療における地域の医療機関の診療の実践について積極的なご意見をいただきました。昨今トピックスとなっているcardio-oncologyの内容も含め、下記の日程で第7回がん治療病診連携セミナーを開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

### 第7回がん治療病診連携セミナーを開催いたします

テーマ：「分子標的治療薬使用患者の連携をいかに行うか」

日時：平成29年7月20日(木) 19:00~21:00

場所：TKPガーデンシティ仙台 ホール30A AER30階

## 東北大学病院 腫瘍内科

私たちは「がん診療」の専門家です。がん患者さんについてご相談ください。

TEL. 022-717-8547 (医局)

022-717-7879 (外来)

FAX. 022-717-8548 dco@idac.tohoku.ac.jp